

## 古代エジプトの神官文字 —— 書字文化の解明に向けて

永井正勝 ながい まさかつ / 筑波大学人文社会科学研究科準研究員

古代エジプト文明の文字といえば  
 聖刻文字（ヒエログリフ）が有名である。  
 しかしながら、古代エジプトの書記達は  
 聖刻文字を書いていたのではないが、  
 そのことを意識するようになったとき、  
 古代エジプト文明における書字文化の  
 在り方がようやく見えてくる。

私の研究テーマは古代エジプトの書字文化の解明  
 である。このように表現すると壮大なテーマである  
 が、今後の10年間はパピルス写本に記された文字  
 の字形研究を行うことにしている。実を言うと、私  
 の元々の研究テーマは古代エジプト語の文法記述で  
 あったのだが、現在はそれを保留し、あえて文字の  
 研究に専念している。では、なぜ文字の研究に取り  
 組まなければならなかったのか。そのことから話を  
 始めよう。

## エジプト学者は原資料を読んでいるのか？

古代エジプトにおいて物語文学が成立したのは中  
 王国時代（2080-1759 BC）である。その時代の文  
 学作品のテキスト集としてはA・M・ブラックマンが  
 1932年に刊行したもの（A.M. Blackman, *Middle-  
 Egyptian Stories*, Bruxelles, 1932）が有名であ  
 る。古い著作であるが現在でも「資料」として研究  
 者に利用されており、私自身もかつてはブラックマ  
 ンのテキストを利用していた。しかしながら、5年ほ  
 ど前からこれに疑問を抱くようになった。というの  
 も、原資料は神官文字（ヒエラティック）と呼ばれ  
 る筆記体で書かれているのに、ブラックマンのテキ  
 ストは聖刻文字に直されたものであるからだ（図1）。

聖刻文字と神官文字は共に古代エジプトで使用さ  
 れていた文字である。両者とも表音文字としての用  
 法が中心であり、表語文字（表意文字）としての用  
 法は少ない。これらの文字資料は主にエジプト学で  
 研究されており、エジプト学においては「神官文字  
 は聖刻文字の筆記体であるので、神官文字の資料を  
 聖刻文字に書き換えたテキストも資料としての有効  
 性を十分に保持している」と考える者が多い。だが、  
 このような考え方は果たして妥当なのであろうか。  
 ブラックマンのテキストは神官文字を聖刻文字に改  
 めたものであり、言語学の立場からいえば、それは  
 「翻字」（原資料の文字を他の文字に書き換えたもの）  
 の一種に位置づけられる。

## 神官文字と聖刻文字の関係に対する2つの捉え方

従来よりエジプト学では神官文字は聖刻文字の筆  
 記体だと考えられてきた（直線的発展説）。それ  
 に対してH・ゲディケ（Hans Goedicke）は従来の  
 説に異を唱え、聖刻文字と神官文字が並行して発展  
 したとの説を提唱した（並行的発展説）。並行的発  
 展説は1988年に提唱されたものであるが、エジ  
 プト学においてそれが十分に受け入れられているとは

言い難い。そこで次にゲディケの見解を確認してお  
 きたい。

図2はゲディケの主張を踏まえて筆者が作成した  
 直線的発展説のモデルである。この説において、神  
 官文字と聖刻文字は書体の異なる同一の文字素（文  
 字種）として捉えられており、神官文字の書体は聖  
 刻文字を崩したものと見なされる。

それに対して並行的発展説は図3のようにモデル  
 化される。エジプト文明の萌芽期には聖刻文字でも  
 神官文字でもない「初期エジプト文字」が書かれて  
 いた。これはまだ模索期の文字であり、字形のプロ  
 ポーションが確立されていないものであった。その  
 後、書字行為が頻繁になるにつれて、彫刻によって  
 生み出される聖刻文字と筆書きによって示される神  
 官文字とに分化し、両者は並行して別々に体系化さ  
 れていった。それゆえ神官文字は聖刻文字の崩し字  
 ではなく、それ自体で独立した文字体系として存在  
 していた。

私自身は、ゲディケが提唱した並行的発展説が間  
 違ったものではないと判断しているが、そのように  
 判断する根拠として3つのことを指摘したい。1つ  
 は書記学校の生徒が残したテキストである。新王国  
 時代（1539-1069 BC）の書記生が最初に習う文  
 字は神官文字であったのであり、彼らが記した筆記  
 板やオストラカ（土器片・石片）が多数発見されて  
 いる。

2つ目はエジプト学者が「崩し字聖刻文字」と呼  
 ぶ文字の存在である。崩し字聖刻文字は「死者の  
 書」と呼ばれる文書を記す際にも用いられる  
 （図4）。石に彫られた聖刻文字と比べて字形が崩れ  
 ているとの印象を我々は感じがちであるが、このよ  
 うな印象は聖刻文字の字形を基準としたものである。  
 書記が日常的に扱っていた文字が神官文字であ  
 ることを踏まえるならば、「崩し字聖刻文字」と呼  
 ばれるものは、神官文字に熟達している書記が筆で  
 書いた聖刻文字、つまり「筆書き聖刻文字」として  
 捉えられるであろう。図5は「私」を意味する単語  
 を聖刻文字、筆書き聖刻文字、神官文字で記したも  
 のである。それぞれの表記において中段にある文字  
 は「取っ手の付いた籠」をかたどった文字素である。  
 良く見ると、聖刻文字では向かって左側に取っ手が  
 付いているが、神官文字と筆書き聖刻文字では右  
 側に取っ手が付いている。筆書き聖刻文字が聖刻  
 文字の崩し字であるならば、取っ手は左側に付いて  
 いないといけない。



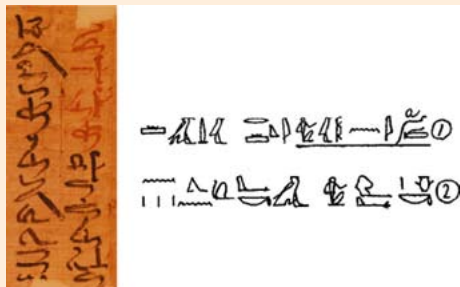


図1 神官文字の写真(左)とそれを聖刻文字へ翻訳したブラックマンのテキスト(右)。



図4 「死者の書」の文字。



図5 神官文字に由来する「筆書き聖刻文字」の字形。

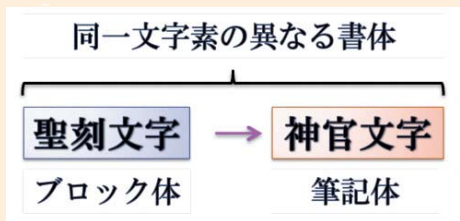


図2 聖刻文字と神官文字の直線的発展説。

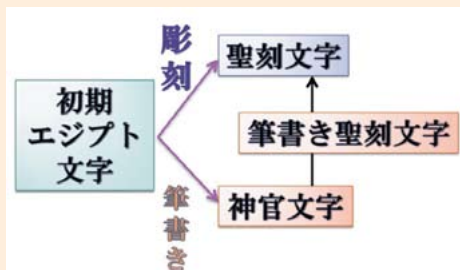


図3 聖刻文字と神官文字の並行的発展説。

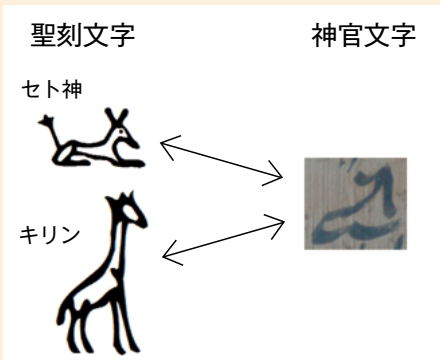


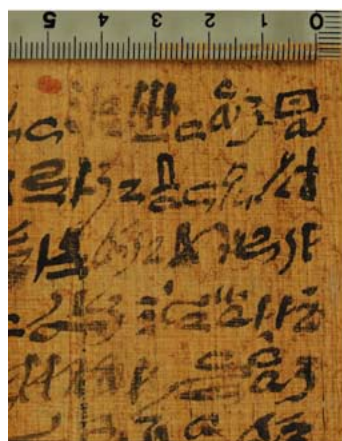
図6 聖刻文字にはセト神とキリンの文字素がそれぞれ存在しているが、それらに対応する神官文字の文字素は1種類となる。

そして3つ目は神官文字と聖刻文字で文字素の種類に違いがあることである。たとえば図6にあるように、聖刻文字には「セト神」と「キリン」を示す別々の文字素が存在しており、どちらを使用するかによって語の意味が異なってくる。しかしながら神官文字では両者の区別がなく、1つの文字素で記される(字形としてはセト神に近い)。エジプト学者が神官文字資料を聖刻文字に書き改める際、その都度、セト神にするのかキリンにするのかという判断がなされるのだが、原資料の文字にはそのような識別がなかったことを心得ておくべきであろう。

### 神官文字のカラー画像データベース

聖刻文字への翻訳テキストは古文書の原資料ではなく、文字解釈というフィルターを経て作成された二次的なテキストである。しかしながらエジプト学では翻訳テキストが「資料」として利用されているし、文法書の例文でも聖刻文字に翻訳されたもののみが掲載されている。このようなエジプト学の伝統にわづかでも新たな風を送るべく、私は神官文字の画像データベースを作成し、神官文字の資料を神官文字のまま読むべきだとのメッセージを発信している。データベース作成の具体的な作業は、海外の博物館に赴き、パピルス写本を観察して写真におさめ、その写真から文字の1つ1つを切り出してデータベースに入力するというものである。その際、文字コード、書字方向、インクの色、行数、単語の子音転写、意味、グロス(文法解説)などの情報も同時に付加しているので、各情報から検索やソートをかけて出力することが出来る(図7)。

2005年にロシアのエルミタージュ国立美術館で実施した調査の結果については、ようやく2009年に学位論文としてまとめることができた。2010年度からは科学研究費補助金の助成を受けてイギリスの大英博物館に所蔵されているパピルスの調査を実施している。現在のところ1人でコツコツとデータベースを作成しているので質と量の点で課題が残るが、カラー写真を利用した神官文字の画像データベースは世界でも類のないものと自負している。1つの写本には延べにして少なくとも数千の文字が書かれており、それを1人で画像化しているので地道な作業の繰り返しである。思えば古代の書記達はそれらを手で書いていたのであるから、印刷された校訂本に安易に頼るのではなく、今後も原資料に基づく研究を進めていきたいと思っている。



Word ID	Transcription	Meaning	Gloss
W-08-01-01	<i>šm.t</i>	go out	infinitive
S-08-01-01		N040	Black <i>šm</i> -
S-08-01-02		G017b	Black <i>m</i> -
S-08-01-03		X001	Black <i>t</i> -
S-08-01-04		D054	Black - DET
Word ID	Transcription	Meaning	Gloss
W-08-01-02	<i>r</i>	to	preposition
S-08-01-05		D021	Black <i>r</i> -

図7 左側が原資料の写真。右側がそのデータベース。背景が白色の部分が単語情報であり、ここには子音転写・訳・グロスを掲載した。また、背景が黄色の部分は単語を構成する文字の情報(ID、写真、文字コード、インクの色、発音、機能)である。